

さくら

編集・発行 令和2年 3月 10日
神河中学校 PTA文化・研修部

神河中学校 9回生のみなさん

卒業おめでとうございます！

～合唱コンクール～



～プロから学ぶ創造力育成事業講演会～



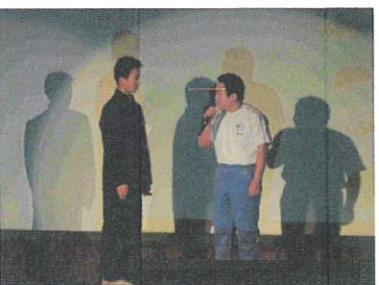
～1年生 学年レク～



～2年生 スキー教室～



～三送会～





一年を振り返って

PTA副会長 岸田 佳恵美

今年度は五月の元号改正から始まり、消費増税、台風被害、一方ではラグビーW杯、オリンピック開催予定等、子ども達や保護者にとても慌ただしい一年だったと思います。

そんな中、子ども達は修学旅行、部活動の総体・コンクール、体育大会、合唱コンクール等の行事にしっかりと参加し、充実した学校生活を送ることができました。我が子が一つひとつの行事に自分なりの目標を持って挑戦していく姿を見る度にいつの間にこんなに大きくなったの…と驚きとうれしさがこみあげてきました。同時に子ども達に熱心に指導をして下さる学校の先生方、温かく見守って下さる地域の方々には感謝の気持ちで一杯です。

学年末には新型コロナウィルス流行で大変な思いをさせてしまいましたが、子ども達を見ていると、何をすべきか自分で考え、落ち着いて過ごしていました。その姿は、神河中学校での普段の生活そのものだったのでないかと思います。

子ども達にとっては中学校生活で受けた愛情を糧に、これからも様々な事に立ち向かい、乗り越えていけるという自信につながったのではないでしょうか。出会うと自然に「ここにちは」と爽やかに挨拶してくれる素直な神河中学校の子ども達。十年経っても何十年経っても「元気にしてる?」とお互いに思いやる心を忘れず、成長していって欲しいです。

最後になりますが、PTA役員の皆様、校長先生をはじめ教職員の皆様、一年間お世話になりました。本当にありがとうございました。



私たちの務め

神河中学校長 楠田 敏彦

皆さまこんにちは。早いものでいよいよ私にとっての最後のPTA文集寄稿となりました。何を書こうかと迷ったのですが常日頃私が感じているところを述べたいと思います。

皆さまはどうお考えでしょう?私は、親の務めは、「自分の子が一人でも生きていけるようにすること」。教師の務めは「生徒に自信をつけさせること」だと思っています。そして、親にも教師にも共通する願いは、「子供たちが心身ともに健やかに成長してくれること」だと確信しています。では、子供たちが健やかに成長するためにはどうすれば良いのでしょうか。それは、PTA神崎にも書きましたが、とにかく親と教師が仲良くすることです。お互いの信頼関係を構築することが最も重要なと 思います。普段から積極的に連絡を密にしてお互いの距離を縮め、あらゆる機会をとらえてお互いの願いや価値観を出し合い一致点を見いだす努力を重ねることが私たちの務めです。お互いがお互いの悪口を子供たちの前で話しているようでは決して健やかな成長は望めません。いかに考え方方が違っていても、いかに教育方針が違っていても、学校では「家では親の言うことを聞きなさい」、家では「学校では先生の言うことを聞きなさい」と言っています。そして、もし考え方方に食い違いがあるのなら、自分の考え方をお互い率直に遠慮することなく出し合って共通点を見いだす努力をするべきで

す。そうすることによって、子どものことについて同じ方向を向いて、その子の成長を願って密接に携わっていくことができるようになります。

3月末で私は神河中学校を去りますが、今後、ぜひ学校と保護者・地域がお互いに尊重し、協力し合って、神河町の子供たちをより健やかに逞しく育てていって下さることを切に願って止みません。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



1年間を振り返って

第2学年主任 廣岡 治

2019年度もはや1年経とうとしています。本年度、2年生の学年主任を担当させていただきました。保護者の皆様には、日頃、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきましてありがとうございます。

2年生では、学校の中心となって動く行事がたくさんあります。学校を離れてふだんできないことに挑戦する「トライやるウィーク」、夏の総体や音楽コンクールに向けての「壮行会」、学校の生徒会を担う「生徒会選挙」、お世話になった先輩方に感謝の気持ちを込めて行う、「3年生を送る会」などです。生徒たちは、一つひとつの行事の意義を考え、目標を設定し、試行錯誤しながら、よりよいものを作り上げようと努力しました。特に「トライやるウィーク」では、たくさんの事業所の方々に5日間たいへんお世話になりました。生徒たちにとっては、様々な体験活動や地域の人々とのふれあいから多くのことを学べたとても有意義な機会でした。日頃の業務に加えてこの活動に対する準備や支援など、負担なことも多かったと思いますが、熱心に指導していただき本当にありがとうございました。

これから生徒たちは3年生になり、自分たちの進路について真剣に向き合わなければならぬ時期が近づいています。これらの行事で学んだことをもとにして、自分の夢や目標に向かって悔いのないよう進路を切り開いていくことを期待しています。



1年生のスキー実習は、インフルエンザ流行のため中止になりました。そのため、多目的ホールでレクリエーションを行いました。

- 今日のレクは大成功だったと思います!!どのゲームや出し物もみんなで盛り上がりました。パロディCMをみんなに褒めてもらって嬉しかったです。ゲームはクラス2位と惜しい結果だったけど、実行委員会で一生懸命計画してきた甲斐がありました。
- 今日のレク、めちゃめちゃ楽しかったで~す!スキー合宿に行けなかったのは残念だったけど、みんなでいっぱいはしゃいで面白かったです。学年みんなで笑い合えたのがよかったです。また、あんな機会があってほしいし、みんなで笑い合いたいです。



認知症サポータ 養成講座感想

認知症の方が現れたら、気持ちを第一に考え、介護してあげたいなと思います。（生徒感想）

・こんなことを勉強してるんだなあと思いました。自分も歳を重ねていくと親の介護を考えさせられます。私の親も、今はしっかりしていますが、いつ認知症になっても不思議ではないので、すごく身近なものに感じます。そんな状況になったとき、あわてないように知識を深められたらいいと思います。（保護者感想）

・私の曾おじいちゃんは今、認知症です。私のことも、もう分かりません。でも家族と話したり、パンフレットを見たりして、これからどう接していくべきか、何をすることが一番いいのかを気付くことができました。まず、「大丈夫だよ」と優しく声をかけることが一番大事なことだと思います。また、私は、少し手伝うくらいの介護など、周りの人の支えが認知症の方への気遣いが負担やストレスの軽減に繋がると思います。今回学んだことを生かして、曾おじいちゃんとも接していくことをと思いました。（生徒作文）

・今まで認知症といえば、大変なイメージしかなく、接し方も正直理解していませんでした。しかし、今回「認知症を知ろう」という資料を読み、認知症の方がいれば、直ぐにでも人間仗となり、サポートしていきたいと考えました。祖父も認知症を患っています。一緒に暮らす父母の苦労は計り知れないと思います。認知症の方、それぞれが抱える不安や苦しみを理解し、さりげなく自然に手助けすること、困ったときは早めに相談することなど家族として覚えておこうと思います。一人ひとりがもっともっと認知症という障害を理解し、心のバリアフリー社会を作ることもたいせつだと感じました。（保護者作文）



2年生

スキー教室

2年生は2月13日に峰山高原にスキー教室に行きました。雪不足のため実施できるか心配していましたが、天候にも恵まれ、大きな事故や問題もなく、スキーを楽しむことができました。

今年、初めてのスキーでちゃんと滑れるか心配だったけど、たくさん滑れて良かっ

たです。インストラクターの人も上手く滑れる方法をたくさん教えてくれました。みんなと滑れてとても楽しかったです。リフトで友達と話したり、カレーをみんなで食べたりしてとても楽しかったです。1日だけど、インストラクターさんのおかげで少し上手くなれたと思います。とても近いスキー場があるので、もっとたくさん行きたいと思いました。また友達とも行けたらとても楽しいだろうなと思いました。

今日のスキー教室はすごく滑れるか心配でした。でも、ちゃんと思い出して滑ることができたのでよかったです。天気が良かったので寒くなかったです。途中でスピードがめっちゃ出て恐かったです。こけそうになりました。でも、1回もこけることがなかったのでよかったです。お昼ご飯のカレーでは、少し辛かったけど、おいしかったです。インストラクターさんのノリがすごくよくておもしろかったです。このスキー教室で少しは上達できたんじゃないかなあとと思いました。中学校で行くのは最後だけ、また行きたいです。もっと上達できるようにがんばります。

ほぼ1年ぶりのスキーでした。感覚がなくて初めの方はできるかどうか不安だったけど、後半はすいすい滑れたのでうれしかったです。お昼のおかわりはゆらちゃんとたくさんおかわりをして、お腹いっぱいになって良かったです。エイミーのお姉ちゃんもいました。去年は泊まりもあったのでもっと楽しかったけど、今年はなかったのであったらいいのになあと思いました。午前中より午後の方が時間が早く過ぎました。午後からは、けっこう急な所を滑りました。りおんちゃんとリフトに乗りました。リフトは、結構止まったり、大きくゆれるのでみんな怖がっていました。最後1回滑る時に楽しもうと思って、スピードを出して滑りました。いい1日になりました。また行きたいです。

正直、スキー実習に行きたくはなかったけど、スキーをしているうちにすごく樂しくなって「まだ帰りたくない」って思うぐらいになっていました。最初は、いきなり滑れるか心配だったし、こけるのがこわかったので、ずっとゆっくり滑っていました。インストラクターの人が教えてくれたおかげで、ちゃんと滑れるようになったし、スキーがちょっと好きになりました。1回、急な所でスピードがついたままころんだ時に、痛くないのがわかって、次からもっと自分のすべりたいように滑ろうと思えました。急な所は、まだこけずには滑れないけど、最初ほど恐いとは思わないようになりました。お昼のカレーはちょっと辛かったけど、おいしかったです。おなかがすいてたけど午後からのスキーでしんどくならないように1杯だけにしつきました。最後に「滑りたい人だけ滑ってきて」って言われて、るあんと滑りに行きました。人も少なかったのでのびのび楽しく滑りました。

最初はこけたりしていたけど、時間が経つにつれてだんだん慣れてきて、スピードが少し速くなてもこけずにすんだのでよかったです。リフトも最初に乗った時は、恐かったけど2回目からはもう落ち着いて乗れました。滑っている時はすぐこけてしまって、インストラクターの方や先生に助けてもらってばかりだったけど楽しかったし、方向転換が少し難しかったけど、こつをつかむとすぐできました。スキーなんて普段そんなにしないし、苦手なのでやる前あまりやりたくないなと思っていたけど、やりはじめるととても楽しかったし、こけて起き上がるまでは1人では無理だったけど、次行く機会があれば、こけても1人で立てるようになりたいです。インストラクターの方もとてもいい人だったので楽しく滑ることができました。

僕はスキーにあまり行ったことがなく、1回しか経験がなく、全然うまくいきませんでした。はじめは、簡単なコースで滑りました。一番下のコースでしたが、とても急な坂で、1年以上滑っていないので心配でした。インストラクターの人に教えていただきながらスキーをしていました。たまにころんとしまったこともあったけど、戻り方を教えて下さり、とても親切に教えていただきました。最後の方に中級コースを数回滑りました。初級コースとは、とても比べものにならないぐらい坂やカーブがあって僕にはとても滑るのは困難でした。

私はスキーをすることが苦手で、高いところもダメでスピードが速く出るのもダメで、スキーはこの2つが組み合わさっているので、私の体にとっては大ダメージでした。毎回毎回、何回かこけてしまって、みんなに迷惑をかけたり、恥ずかしかったりする思い出ができるけれど、今年はこけることが1回もなく本当にうれしかったです。初めにもう一つ上の班に行っても大丈夫やから行く?と言われた時は、何かうれしかったけれどやめました。リフトが恐くて2回目から無理でした。リフトから降りる時は大丈夫だけれど、急な坂を下るのは無理で歩いて降りました。宮崎先生に板やスクートを持ってもらって、苦手な高いところを降りることができました。先生とインストラクターの方には本当に感謝です。お昼ご飯のカレーはおいしかったけれど、激辛すぎて倒れるかと思いました。やっぱりスキーは苦手なままだけど、いい思い出になりました。

久しぶりのスキーで滑れるか不安だったけど、楽しく滑れたのでよかったです。天気も晴れてよかったです。インストラクターの人も上手く教えていただいたので、さらに上達しました。一番簡単なコースのとても急な坂のところはめっちゃ恐かったです。足に体重をかけたらこけずにすべれたのでよかったです。午前は、今までのことを思い出せたのでよかったです。お昼ご飯のカレーはとてもおいしかったです。午後は、もう一つのコースに行きました。簡単なコースよりも難しかったけど、こつをつかめました。急な坂でこけそうになったけど、なんとか滑れました。2回目に行った時は、すいすい滑れて下の所までスピードに乗っていけました。楽しかったです。今年は雪もあんまり降らなかったけど、行けてよかったです。楽しく滑れることができてよかったです。



2019. 10. 23
神崎高校との
中高交流講演会
木戸俊介さんの「超ポジティブな夢の叶え方」
2015年4月4日、交通事故による胸椎損傷から下半身が完全麻痺。 医者からは、も

う動けない・・・と宣言されたが、動く事をあきらめず、夢に挑戦し続けている方。

今日の講演を聴いて、自分の弱さに気づきました。私はいつもネガティブな方向に物事を考えてしまう癖があるので、前向きに考える方法を教えてもらい、自分の中ですごく力になりました。そして1つ、私が思っていることと同じ事を言わされました。「難しいからチャレンジしがいがある。」と言うことです。本当にそうだと思います。難しいことにチャレンジすることが楽しいことだと思うから、これからもこのことを大切にしていきたいと思います。自分がネガティブだと思っているのは、自分が意識しているからだということに気付き、自分も木戸さんのように何でもポジティブに考えられるようになりたいと思いました。そして、私も木戸さんと同じようにたくさんの夢があります。たくさんありすぎて叶えられるのかどうかわからないけど、木戸さんのように1つ1つ小さなことからでも叶えていけるようにしたいと思いました。そして、言われていたように「宣言」をしたり、ずっと言い続けたいと思います。そして、時間を大切に生きていきたいと思います。今回 木戸さんが言われていたことを心に留めて、これから先、何があってもポジティブに生きていける強い人になります。

「人生は考え方次第で圧倒的ポジティブに変わる」この言葉の裏には、木戸さんの事故を経ての苦労や想いが感じ取れます。車椅子生活になったことで今までの生活とのギャップや不自由さを逆手にとり、自分が出来ること、自分にしか出来ないことを見つける姿勢はとてもカッコいいと思いました。夢を宣言することで自分を追い詰めて夢を実現させる。これはなかなかできないと思います。自分から「ポジティブモンスター」と名乗ったのも、ある意味、自分を追い詰めていてすごいと思いました。合言葉として紹介された『「できない」を「できた!」に変える』は、小さなことから大きな夢までポジティブな考え方から「できた!」に変えるという想いが込められていると感じました。木戸さんの夢ノートがすべて線で消されたらしいなと思います。ピッポキャンプ(水陸両用の車椅子)で活動されている姿がカッコ良かったです。



文化・研修部のみなさん



PTA活動の一年を振り返って

小林 真巳

PTAという大きな仕事をいただき、責任感も今までになく感じた一年でした。人と助け合う大切さを痛感した一年もありました。

中学校のPTA活動は、子どもたちを後押しする応援団として、親が学校・地域と連携を取り、どう対応するかを学ぶ場であると思います。その一環として、私は文化・研修部の一員として、ベルマークの集計や夏祭りの巡回補導、体育大会の交通整理、神戸で行われた全国PTA大会に参加させていただきました。活動の中で、お世話になっている先生方、PTAの役員の方々のおかげで、私たち親子が安心して登校でき

る神河中学校があるのだと再確認した次第です。

子どもたちは思春期の真っただ中を、それぞれに楽しみ、悩み、自分自身のアイデンティティの確立へと進んでいます。同時に社会も目まぐるしく変わっています。そんな中で、子どもたちがたくましく育ち、希望のある将来へ突き進むために、できるだけ多くの選択肢を持ってもらいたいと考えます。自分の思い通りにいかないこともあります。そんな時、いろいろな選択肢の中から選び考える力や、いろいろな環境下においても適応できる能力をつけてほしいと思います。今、その為に親も一緒に学んでいかなければいけないと私自身感じた一年でした。

今年度PTAに参加した保護者の皆様は、それぞれの活動に知恵を出し交流を深めておられました。私自身そして皆様も、この一年のPTA活動で学ぶ機会を与えて頂いたことは今後とも参考になることだと思います。

本年度一年間、先生方、役員・会員の皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。

四月から、新役員のもと、新たな活動が始まります。会員の皆様には、子どもたちのために今後も引き続き、ご協力と参加をお願いし、活発な神河中学校PTAであつてほしいと祈念申し上げます。



1年振り返って

眞弓 隆典

もうすぐ中学校生活も終わろうとしています。

3年間頑張ったクラブ活動、そして修学旅行、体育大会などの行事も終わり卒業目前となりました。3年生としてのこの1年は子供たちにとって、あっという間だったのではないかと思います。

長男は部活を引退してもなかなか受験モードに切り替わらずやきもきさせられましたが、受験が近づくにつれ本気になってきました。ついつい期待しすぎてきつい言葉をかけてしまいますが、反抗期も落ち着き進路のことを真剣に考えている様子をみていて少ししっかりしてきたのかと思います。

長女は他の3年生が引退するなか駅伝に向けて部活動を秋まで続けました。受験勉強との両立は大変そうでしたが県大会まで進むことができ、充実した部活動を終えることができました。

子どもたちは3年間たくさんの経験をし、嬉しいこと、楽しいことばかりではなく、悔しいこと辛いものもありました。しかし、そのことを通して精神的に強くなってくれたのではないでしょうか。4月から高校生になり新しい生活が始まますが、これからも色々な経験を通して人間的に成長してほしいと思います。

最後になりますが、3年間御指導いただきました先生方には大変お世話になりました。有り難うございました。



1年間振り返って

西野めぐみ

今年度、初めて役員としてPTA活動に参加させていただきました。

今まででは、休みが取れなかったり、息子たちも「無理して来なくてもいいよ」と言ってくれることもあり、大きな行事を見に行くことしかできていませんでした。

役員として、日本PTA全国研究大会や、夏祭りの巡回補導、合唱コンクールに参加させていただきました。全国研究大会では、災害時に子どもたちをどう守るか、大人が協力し合いできることは何かを熱心に発表されていました。体育大会や合唱コンクールでは、子どもたちの頑張っている姿に感動しました。先生方やPTA役員の皆様、地域の皆様に支えられ、見守られているからこそ子どもたちは安心して学校生活を送ることができているのだと思います。子どもたちにも伝えていきたいと思いました。

役員とは名ばかりで、何もできませんでしたが、1年間お世話になりました。ありがとうございました。



3年間振り返って

佐古 崇

次女が入学してはや三年が経とうとしています。入学当初は、初めての部活や定期考査、大人数での学校行事等大きく変化する生活に、期待と不安を持ちつつ、先輩の姿をみながらがんばってきました。学年を重ねるごとに、学校での活動・役割も中心となっていき、責任感を持って取り組んでいたように思います。3年生になり、最後の行事となったとき、「成功させたい」という思いが伝わってきました。うまくいかなかったことや上手にできて先生に褒めてもらったことなど、いろんな出来事を話してくれる娘。聞いていて「良い友達、良い先生に恵まれて本当によかったな」と思いました。練習を重ね、まとまっていくクラスに充実感や達成感を味わうことができたと思います。たくさん感動をもらいました。

最後になりましたが、校長先生をはじめ子供たちを教え導いてくださった先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



1年間ありがとうございました。

